

【熊本日日新聞社賞】

みんなの力を合わせれば

熊本県立八代清流高等学校 1年 瀬崎 杏樹

「一人では難しいことでも、みんなの力を合わせれば成し遂げられる。」今、私はこの言葉を実感している。

私の地元八代市には約380年の歴史を持つ「妙見祭」がある。九州三大祭りの一つで、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている。神輿や笠鉾など40の出し物があり、その中の「ガメ」の愛称で親しまれている亀蛇を幼い頃から身近で見してきた。亀蛇には「親ガメ」と「子ガメ」の2種類がある。そのうちの子ガメの衣装が今年新しくなる。衣装はすべて、地域のガメに携わる女性数名で手作りするのだ。私は驚いた。子ガメといっても、衣装はとて大きく重い。生地を見つけることから始まり、生地が集まると本格的に衣装作りのスタートだ。私はガメの衣装ができるまでの現場を見たくて、作り手の一人である母について行った。その時私が目にしたのは、ミシンや手縫いで楽しそうに作業する姿と、衣装を作るマニュアルが無いがために苦戦する姿だった。だが、作業の手が止まるたび、みんながたくさん意見やアイデアを出し合っていた。それにより、衣装の形が少しずつではあるが見えてきた。

その中である方がおっしゃっていた言葉が印象に残っている。それは「一人一人の得意なことを活かして衣装を作ればいい。」「一人ではできないことでも、みんなでアイデアを出しながらやればできる。」という言葉である。私は素敵な言葉だと思った。地域の慣例では、女性はガメを担いで祭りに出ることはできない。だが、祭りに参加する人達を裏で支える大役を担っている。そのような誰かがいなければ、祭りは成り立たない。一人ではできないことを、皆で協力して助け合って作り上げることが大切なのだ。

コロナ禍で祭りが中止になった三年間、妙見祭という伝統の継承が難しくなっていた。その祭りが三年ぶりに開催されようとしている。これから私達若い世代が地元の伝統行事を大切に守り、さらに次の世代に継承していかなければならない。私は将来、地元に残り生活し、八代の魅力をたくさんの人に発信し、妙見祭を盛り上げたいと考えている。近い将来コロナ禍が収まれば、八代はもっと国際的な町になり、日本全国、世界中の人達にも祭りに参加してもらえる日がくるだろう。「一人では難しいことでも、みんなの力を合わせれば成し遂げられる」。今回、衣装作りの手伝いを経験したことで、改めて人と人の関わりに気づくことができた。妙見祭は多くの人々の思いや尽力によって、未来へ受け継がれていく。

だから、私達は子ガメの衣装作りに手を抜くことはない。地域のガメに携わるみんなの思いが一つになった。今年、祭りが無事開催されることを願いながら、衣装を完成させていく。